

2021年 6月 27日

主 日 礼 拝

①8:30am ②10:30 ③1:30pm ④7:00

司 会 ②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱 ②小山美枝子姉

賛 美 聖歌424番 ~主イエスをほめよ~

詩篇23篇

せいしやうどく
聖書朗読

ヨハネの黙示録9章13~21節

特別賛美 ①②ICA クワイア/③④YANCHA 手話賛美

メッセージ 「共にうめき苦しむ神様」

石井 潤 牧師

けん きん
しゅく とう
祝 金 祝

聖歌423番 ~み手の中で~

お知らせ [司会者]

賛 美 ~イエス様は私たちの道~

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします! ☆
《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを心より感謝致します。今週も主の守りと祝福を祈ります!

☆今週の祈り会は ○早天祈祷会：明朝6時、◎祈祷会：木曜午前10時半、
夜7時半（大和教会の祈祷会に参加）。○準備祈祷会：土曜夜8時。

★来週の日曜も礼拝のみ4回行われます。〈司：白川兄/祈：石井兄〉。

☆今年も半年守られたことを感謝して「上半期感謝献金」をお捧げ致しましょう!

☆一年に一回聖書を完読できる! Bible Reading Plan [6/27-7/4]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	歴代下 15-17	18-19	20-21	22-24	25-27	28-29	30-31	32-33
新約	使徒 7:30-60	8:1-24	:25-40	9:1-22	:23-43	10:1-22	:23-48	11
チェック	〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

「共にうめき苦しむ神様」

～黙示録と今回のパンデミックから考えさせられたこと～

「御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。」ローマ人への手紙8章26節

「⁴この幕屋の中にいるわたしたちは、重荷を負って苦しみもだえている。それを脱ごうと願うからではなく、その上に着ようと願うからであり、それによって、死ぬべきものがいのちにのまれてしまうためである。⁵わたしたちを、この事にかなう者にして下さったのは、神である。そして、神はその保証として御霊をわたしたちに賜ったのである。⁶だから、わたしたちはいつも心強い。そして、肉体を宿している間は主から離れていることを、よく知っている。⁷わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているのである。⁸それで、わたしたちは心強い。そして、むしろ肉体から離れて主と共に住むことが、願わしいと思っている。⁹そういうわけだから、肉体を宿しているにしても、それから離れているにしても、ただ主に喜ばれる者となることが、心からの願いである。」

コリント人への第二の手紙5章4～9節

黙示録は引き続き、罪を犯し続ける人類に対して、厳しい神様の裁きが表現されていきます。この黙示録からどのようにして神様の恵み深さをお伝えすることができるのか？と正直今回は本当に苦しみました。

そんな時に月刊誌の「舟の右側」の中で連載を続けておられる、大頭眞一先生の「焚火牧師と神の国のひみつ」の中で登場する文章で深く考えさせられた内容がありました。

“聖書の伝統に編み込まれている嘆きの意義は、単に私たちの不満や悲しみ、孤独、起っている事柄の意味が分からないゆえの苦悩の、単なるはけ口ではない。聖書の奥義は、神も嘆かれる、ということなのだ。クリスチャンはつい、神はそういった全てを超越しておられ、何でもご存知で、全てを掌中に収めて、ご自身の世界のトラブルの影響など全く受けられないと考えがちである。けれどもそれは聖書の描く御姿ではない。神は被造物である人間の暴虐に、心から悲しまれたことを創世記は告げる。花嫁であるイスラエルの民が背を向けて背徳の限りを尽くすことに愕然とされた。その神が受肉され、民の間に宿られた時、その友の墓で涙を流された。パウロは聖霊が「うめく」と語った。三位一体の教理は、主イエスの涙と聖霊のうめきにおいて一つなる神の認識を教える。”(NTライト2020年11月16日説教より)

自分中心の生き方を改めようとしなない人間たちの頑なさ。それは痛い程、神様ご自身をご存知です。それでも、最後には裁きがなされるという警告が黙示録の本音であるわけですが、そんなことにならないようにというメッセージでもあると思います。まず、自分たちから心から悔い改めて、神様を第一として求め続けることを求めたいと願います。